

坪田孫助翁碑

坪田孫助翁は天保7（1836）年の生れで幼名を駒吉のち松吉と称し、家を興すに至り孫助と名乗った。生来機敏で商才があり、その先見性は海外通商貿易の必要なことを痛感し、横浜へ飛び福井羽二重の国外輸出に努力した。

越前福井藩の藩財政再建の責任者由利公正は坪田翁の識見を高く評価して、藩保有の生糸全部の処分を翁に一任した。その結果期待通りの大成功をおさめ、莫大な巨利を博したので福井藩はこれに対して金500両(当時米1石が1両の時代であったので現在の時価に換算しても相当な巨額であることか判る)を以って報い福井藩が坪田翁に如何に大きな期待と評価をしていたかが窺える。

翁はまた、福井羽二重の声価を世界中に広めた大功労者であり、海外通商貿易の日本人最初の先覚者として郷土の誇るべき偉大な傑物であったことを讃えてこの碑が建てられたものである。特に北海道五陵郭で官軍に最後の抵抗を挑んだ幕臣の農商務大臣榎本武揚の顕額が一段と光彩を放っている。

